
贈り物

結名 舞雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

贈り物

【Nコード】

N5982I

【作者名】

結名 舞雪

【あらすじ】

真夜中、突然の恋人の訃報が。
やつと恋人の死を受け入れた時。。。
愛する恋人からのメッセージが届いた。

□ プロローグ □

貴方の歌・・・

貴方の声・・・

貴方の温もり・・・

今でも 覚えています。

貴方のすべてを・・・

□ 1 章 □

貴方が天に召されてから 1 年が経ちました。

貴方は今でも そっちで大好きな歌を歌っていますか???

部屋で貴方を待っていると貴方からの電話。

『 今日もレコーディングだから そっち行けないわ 』

貴方はそう言っ て ため息をつく。

少し疲れているのが電話越しから伝わってくる。

「 そっか。会いたかったけど・・・。」

レコーディングだったら仕方ないよね」

私は少し寂しそうに答える。

『ごめんな。』

折角、会えると思ったんだけど・・・
申し訳なさそうに言う。

「大丈夫。CD 楽しみにしてるから」

私が少し強がると、貴方は・・・

『いずみ・・・。』

・・・愛してる』

名前を呼んだと思うと、私の欲しかった言葉を続ける。

「私も愛してる」

私も想いを込めて伝える。

この言葉が貴方の口から聞ける最後の言葉になるとは、その時は全然思わなかった。私

彼が来ないこともはつきりしたし、私は早々に寝る事にした。

午前3：00――

枕元で鳴り響く着信。

彼と一緒に仕事をしているメンバーの翼からの電話だった。

「・・・もしもし?」

少し寝ぼけながら 私はその着信に出る。

『いずみちゃん? 冬馬が!!』

かなり余裕の無い口調で捲くし立てる。

「冬馬・・・??」

大切な彼の名前を聞き、少しづつ眠りから覚醒する。

『落ち着いて聞いて!! 冬馬が・・・ 死んだ』

本人も信じがたいような言葉を吐く。

「死んだって……。冗談キツイよ。だって、冬馬はレコーディングだって……」

彼の突然の死を受け入れる事が出来ず、悪い冗談だと思った。

『冗談なんかじゃないよ！！』 並木総合病院に運ばれたからすぐに来て！』

遠くで翼の声が聞こえている。

私は電話を切り、ノロノロと準備を始めた。

そして、私は すでに冷たくなった彼と対面した。

世間では彼のCDはボーカルが不慮の事故で死んでしまった事もあるって、遺作として残った。

そんな時、私の元に翼を含むメンバーから1枚のCDが届けられた。でも、私は彼の死を受け入れる事が出来ないでいるので それを聞く事が出来なかった。

彼の後を追うことも考えた。

でも、その度に 最後に聞いた彼の言葉を思い出す。

彼はレコーディングを凄じい集中力で済ませ、会いたがっていた私の元へ向かう途中、

事故に逢ったのだ。

そんな彼の想いを無駄にする事は彼に対して失礼だ。

彼の思い出に浸りながら毎日を過ごした。

気が付いた時には彼の死から1年の月日が経っていた。

少しずつ 心の不安定さも落ち着き、彼のCDをやっと聞こうと思う事が出来るようになった。

彼の想いが詰まったCD。

デッキにCDを入れ、再生を押すと・・・。

1曲目の前に”123”という表示と共に、彼の声が響く。
『いずみ・・・』

いつも寂しい想いをさせてごめん。

これからも 俺の傍でずっと笑っていて欲しい。

愛してる。 結婚しよう』

周りからは 翼や他のメンバーの囁し立てる声が聞こえる。
レコーディングの途中で録られたトラックのようだ。

——123・・・ いずみ・・・——

私は、そのメッセージに沢山の涙を流した。
自分だけに伝えるだけに録られたトラック。

もう、貴方の口から直接聞く事の出来ない言葉。

1年経って、貴方を失った事を実感した。

実感して、初めて大泣きした。

冷たくなった貴方を見た時も信じる事が出来なくて流す事が出来な
かった涙。

もう、大丈夫だよ。

心配かけて ごめんね。

もう、泣かない。

前に歩き出せるよ。

だって、私の心にはいつでも貴方が居るから。

もう、寂しくないよ。

だって、貴方の事 大好きだから。

ずっと 傍に居てね。

・・・冬馬。

私はこれからも貴方の大好きな笑顔で居るから。
だから 寂しくないよ。

ねえ。

冬馬・・・。

私も貴方の事 愛してる・・・。

いつかまた、貴方の歌声を聞きたいな・・・。

（後書き）

仕事をしている時に浮かんで一気に書き上げた短編。

愛する人を失った時に感じる絶望感とやっと乗り越えた時に届いた
メッセージの

雰囲気을大事にしたいと思って短編にしました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5982i/>

贈り物

2011年1月27日13時37分発行